

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

1	システム基本仕様
1 - 1	基本条件
1 - 1 - 1	端末増設時にクライアントライセンス等のソフトウェア追加が不要であること。
1 - 1 - 2	標本番号は、組織診、細胞診、剖検ごとに管理ができること。
1 - 1 - 3	ユーザIDとパスワードによるアクセスの管理ができること。
1 - 1 - 4	ログインユーザ毎の操作権限の制御ができること。
1 - 1 - 5	ログインユーザ毎の各種操作ログの管理ができること。
1 - 1 - 6	システム機能利用時の担当者管理が可能であること。管理方法は、Felica等の非接触型ICカード(職員証等)やバーコード認証等によること。
1 - 1 - 7	TOP画面に表示する一覧のうち、ログインしている病理医が担当した切出し・診断原案・追加検査等の一覧なども表示できること。
1 - 1 - 8	病院情報システムとの連携は、現行のインターフェイスを踏襲し、連携費用は調達費用に含めること。
1 - 1 - 9	病院情報システムから依頼情報の受信ができること。
1 - 1 - 10	病院情報システムからシエマ図情報が送信される場合は、依頼情報と同時に受信ができること。
1 - 1 - 11	病院情報システムへ到着確認情報および会計情報の送信ができること。
1 - 1 - 12	病院情報システムへ検査実施情報の送信ができること。
1 - 1 - 13	病院情報システムへ進捗情報の送信ができること。
1 - 1 - 14	病院情報システムへ結果(診断情報)の送信ができること。
1 - 1 - 15	手動による依頼情報の入力(受付)ができること。
1 - 1 - 16	手動による診断情報の入力ができること。
1 - 1 - 17	手動による会計表の発行ができること。
1 - 1 - 18	仮に病院情報システムがダウンした場合でも、病理部門の運用は停止せずに、手動にて受付登録、診断入力等ができるシステムであること。
1 - 1 - 19	仮に病院情報システムがダウンした場合に、先行して病理システムで受付ができ、病院情報システムの復旧後に、病理標本番号とオーダー番号を関連付ける機能を有すること。
1 - 1 - 20	バーコード検索機能を有すること。
1 - 1 - 21	ログイン後のTOP画面に標本の一覧を表示でき、その内容は導入時に調整できること。
1 - 1 - 22	病院情報システムに登録されている職員情報の連携を行うこと。
1 - 1 - 23	院内資料情報管理システムであるHos-CanR Plusと連携し、必要な診断情報を送信できること。
1 - 1 - 24	現有のヴァーチャルスライドシステム(ライカ)と連携を行うこと(費用は調達費用に含める)。
1 - 1 - 25	現有の自動免疫染色装置(ニチレイ、ロシュ、ライカ、アジレント)と連携すること(費用は調達費用に含める)。
1 - 1 - 26	院内統合診療支援プラットフォームシステム(CITA)と連携すること。
1 - 1 - 27	他診療科とのカンファレンスで使用する症例一覧や診断名一覧を提示する支援システム機能を有すること。
1 - 1 - 28	現病理システム装置一式内に保存してある全てのデータ移行を行うこと(費用は調達費用に含める)。
2	システム機能
2 - 1	受付機能
2 - 1 - 1	組織診では病院情報システムから組織診、術中迅速組織診、他院組織診標本の依頼情報を取得し、表示できること。 細胞診では病院情報システムから細胞診、術中迅速細胞診、他院細胞診標本の依頼情報を取得し、表示できること。 剖検では病院情報システムから剖検の依頼情報を取得し、表示できること。
2 - 1 - 2	病院情報システムから受信した依頼情報を取得し、表示できること。
2 - 1 - 3	依頼書または検体に貼付されたラベルのバーコードを読み取ることにより、病院情報システムからの依頼情報を取得し、到着確認ができること。
2 - 1 - 4	病院情報システムからの依頼情報一覧(未到着依頼一覧)を表示できること。
2 - 1 - 5	病院情報システムからの依頼情報詳細を表示できること。
2 - 1 - 6	病院情報システムからの依頼情報の変更ができること。
2 - 1 - 7	受付済み標本一覧を表示できること。
2 - 1 - 8	他院標本の依頼については、依頼元施設名とその施設の患者IDの登録ができること。また、院内標本と同様に受付登録、診断登録、報告書発行等の一連の操作ができること。
2 - 1 - 9	新規標本受付の際に、病理標本番号は自動的に最終番号の次番号が発行されること。また、必要に応じて手動にて付番発行できること。
2 - 1 - 10	依頼書に、患者氏名、標本番号、標本番号バーコードを印刷できること。
2 - 1 - 11	オーダー番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、受付済みの対象標本情報を表示できること。
2 - 1 - 12	受付日の登録ができること。また、受付日は当日の日付が初期表示されること。
2 - 1 - 13	迅速情報の登録ができること。また標本一覧においては、迅速情報が色分け表示されること。
2 - 1 - 14	病院情報システムまたは検体検査システムから感染症情報を取得し、表示できること。
2 - 1 - 15	依頼元施設名情報の登録、参照ができること。
2 - 1 - 16	患者属性情報の登録、変更、参照ができること。
2 - 1 - 17	組織診/細胞診では依頼医、主治医の登録、変更、参照ができること。また、依頼医、主治医の連絡先(電話番号等)を入力できること。
2 - 1 - 18	組織診では受付臓器/細胞診では受付材料の登録、変更、削除、参照ができること。臓器/材料の登録、変更の際は、診療科分類、臓器/材料分類より選択できること。
2 - 1 - 19	組織診では臓器/細胞診では材料の補足情報(左右等)の登録ができること。
2 - 1 - 20	組織診では臓器/細胞診では材料の表示順の並べ替えができること。
2 - 1 - 21	組織診では臓器/細胞診では材料の登録件数には制限が無いこと。
2 - 1 - 22	剖検では執刀医、介助者の入力ができること。
2 - 1 - 23	剖検では解剖情報(死亡日時、剖検日時、職業、身長、体重、病期期間、等)の入力ができること。
2 - 1 - 24	剖検では臓器数を入力できること。

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

2 - 1 - 25	組織診/細胞診では採取法の登録、変更、削除、参照ができること。採取法の登録、変更の際には、臓器/材料より選択できること。
2 - 1 - 26	組織診/細胞診では採取法の登録件数には制限が無いこと。
2 - 1 - 27	組織診/細胞診では保険情報の登録、変更、削除、参照ができること。
2 - 1 - 28	組織診では臓器種類、臓器数/細胞診では材料種類、材料数に応じて、保険情報が自動的に選択されること。また、必要に応じて変更ができること。
2 - 1 - 29	組織診では臓器数や保険情報等/細胞診では材料数や保険情報等の会計に関連する情報が変更された際には、追加、訂正情報を病院情報システムに送信できること。
2 - 1 - 30	容器数を入力できること。
2 - 1 - 31	組織診では臓器ごとに、ブロック数、ラベル情報(ブロック番号等)の入力ができること。また、ブロック数の登録件数には制限が無いこと。
2 - 1 - 32	組織診ではリンパ個数の入力ができること。また、臓器別の所属リンパ節番号を入力できること。 剖検ではリンパ個数の入力ができること。
2 - 1 - 33	細胞診では材料ごとに、ラベル情報の入力ができること。
2 - 1 - 34	組織診では臓器ごとに/細胞診では材料ごとに設定されたラベル情報(染色名、枚数)が自動的に生成されること。
2 - 1 - 35	剖検では解剖範囲の入力ができること。
2 - 1 - 36	染色名を入力および追加染色依頼ができること。
2 - 1 - 37	組織診/剖検ではブロックを指定して、染色依頼ができること。 細胞診では材料を指定して、染色依頼ができること。
2 - 1 - 38	組織診/剖検では複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。 細胞診では複数材料を指定して、一括染色依頼ができること。
2 - 1 - 39	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
2 - 1 - 40	染色指示書を印刷できること。
2 - 1 - 41	同一患者の過去標本(既往歴)一覧が表示されること。また、一覧から選択することで詳細画面を参照できること。
2 - 1 - 42	標本の進捗状況が表示されること。
2 - 1 - 43	標本のラベル出力状況が表示されること。
2 - 1 - 44	標本マーク(重要、希少、学会、その他、等)の登録ができること。
2 - 1 - 45	患者マーク(フォロー患者、等)の登録ができること。
2 - 1 - 46	VIP患者の登録ができること。また、VIP患者の標本結果の公開参照を制御できること。
2 - 1 - 47	受付時確認項目の登録ができ、検索の際に簡便に抽出できること。
2 - 1 - 48	受付時確認項目はユーザにて追加登録・修正ができること。
2 - 1 - 49	診断予定医の登録ができること。
2 - 1 - 50	組織診/細胞診では借用標本情報の登録ができること。
2 - 1 - 51	借用標本の病理診断科内での所有者がわかること。
2 - 1 - 52	登録された画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
2 - 1 - 53	剖検では臨床診断情報の入力ができること。
2 - 1 - 54	剖検ではCPC情報の入力ができること。
2 - 1 - 55	依頼書をスキャナにて取り込むことができること。
2 - 1 - 56	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
2 - 1 - 57	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
2 - 1 - 58	受付操作と並行して、問合せ検索機能を利用できること。
2 - 1 - 59	検体の受け取り管理機能を有すること。
2 - 1 - 60	受付時または必要に応じて病理診断科内で使用する標本番号毎の作業書を印刷できること。
2 - 2	切出し機能
2 - 2 - 1	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、対象標本情報を表示できること。
2 - 2 - 2	追加切出し履歴の管理ができること。
2 - 2 - 3	依頼書画像を参照できること。
2 - 2 - 4	切出し日、薄切予定日の入力ができること。
2 - 2 - 5	脱脂、脱灰、固定開始、固定終了、再固定開始、再固定終了に関する日数情報の入力、参照ができること。また、脱脂、脱灰、再固定に要する日数から薄切予定日を自動計算できること。
2 - 2 - 6	脱灰処理方法を作製ブロック毎に情報入力、参照できること。
2 - 2 - 7	切出し者、介助者の登録ができること。
2 - 2 - 8	切出し残臓器の有無が入力できること。
2 - 2 - 9	組織診では臓器ごとに、ブロック数、ラベル情報(ブロック番号等)の入力ができること。また、ブロック数の登録件数には制限が無いこと。
2 - 2 - 10	組織診ではリンパ個数の入力ができること。また、臓器別の所属リンパ節番号を入力できること。 剖検ではリンパ個数の入力ができること。
2 - 2 - 11	染色名を入力および追加染色依頼ができること。
2 - 2 - 12	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
2 - 2 - 13	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
2 - 2 - 14	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
2 - 2 - 15	事前に未染スライド用のラベル発行ができること。
2 - 2 - 16	染色指示書を印刷できること。
2 - 2 - 17	同一患者の過去標本(既往歴)一覧が表示されること。また、一覧から選択することで詳細画面を参照できること。
2 - 2 - 18	標本の進捗状況が表示されること。
2 - 2 - 19	標本のラベル出力状況が表示されること。
2 - 2 - 20	デジタルカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
2 - 2 - 21	デジタルカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
2 - 2 - 22	切出し画像の登録枚数には制限が無いこと。
2 - 2 - 23	登録した画像に対し、切出し線(直線、自由線、円、長方形、分割線)、矢印、任意の文字情報等の作図・加工ができること。

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

2 - 2 - 24	画像編集時の平行直線は、本数を指定して一括描画できること。
2 - 2 - 25	登録した画像上に、標本番号を自動的に表示できること。
2 - 2 - 26	画像編集時の描画オブジェクトの色、太さを変更できること。
2 - 2 - 27	画像編集時の描画オブジェクトを回転できること。
2 - 2 - 28	画像編集時の描画オブジェクトを複製して配置できること。
2 - 2 - 29	画像編集時にブロック番号の自動連番付与ができること。
2 - 2 - 30	編集後の画像は、オリジナル画像を残して別個に保存できること。
2 - 2 - 31	編集後の画像は保存後も再編集ができること。
2 - 2 - 32	画像毎にコメントを入力できること。また定型文も選択できること。
2 - 2 - 33	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
2 - 2 - 34	液晶ペンタブレットを使用して、画像加工ができること。また、その際ソフトウェアキーボードを利用したペンによる文字入力ができること。
2 - 2 - 35	肉眼所見情報の入力ができること。
2 - 2 - 36	同一患者の過去標本(既往歴)一覧が表示されること。また、一覧から選択することで詳細画面を参照できること。
2 - 2 - 37	切出し操作と並行して、問合せ検索機能を利用できること。
2 - 2 - 38	画像編集時、指定した範囲の画像を切出し保存できること。(トリミング)
2 - 2 - 39	加工画像保存時にコントラストを指定して保存できること。
2 - 2 - 40	画像編集時に、2点間の距離、指定範囲の面積が計測できること。
2 - 3	ラベル発行機能
2 - 3 - 1	任意の標本番号バーコードを複数読み取り、対象標本ラベル情報を表示できること。
2 - 3 - 2	印刷対象ラベルの検索ができること。
2 - 3 - 3	未印刷および印刷済での検索ができること。
2 - 3 - 4	組織診/剖検では受付日、切出し日、薄切予定日、染色依頼日による検索ができること。 細胞診では受付日、染色依頼日による検索ができること。
2 - 3 - 5	一覧表示より、印刷対象ラベルを選択できること。
2 - 3 - 6	ラベルシート上の印刷開始位置を指定することができること。
2 - 3 - 7	ラベルに印字する項目は、打合せの上決定できること。
2 - 3 - 8	標本番号のバーコードが印刷できること。
2 - 3 - 9	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
2 - 3 - 10	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
2 - 3 - 11	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
2 - 3 - 12	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
2 - 3 - 13	染色指示書を印刷できること。
2 - 3 - 14	フリーラベルの入力・印刷ができること。
2 - 3 - 15	ラベルシート出力機能を有すること。
2 - 3 - 16	ブロック、スライド単位での作業記録が管理ができること。
2 - 4	診断機能
2 - 4 - 1	オーダー番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、対象標本情報を表示し、診断標本の特定ができること。
2 - 4 - 2	受付時に登録された診断予定医やその他の条件による検索にて、対象標本一覧を表示し、一覧から標本を特定した上で診断入力できること。
2 - 4 - 3	組織診/細胞診では受付時に登録された術中迅速、至急の情報が、診断入力画面に表示されること。 剖検では受付時に登録された至急の情報が、診断入力画面に表示されること。
2 - 4 - 4	組織診/細胞診では標本一覧においては、迅速、至急情報が色分け表示されること。 剖検では標本一覧においては、至急情報が色分け表示されること。
2 - 4 - 5	組織診/剖検では患者属性情報、受付臓器、依頼情報(依頼日・依頼元・依頼医・臨床診断・臨床情報など)が表示されること。
2 - 4 - 6	HER2等の追加検査依頼がある場合、診断画面展開時に注意を促すメッセージを表示すること。
2 - 4 - 7	細胞診では細胞検査士がログインした際には、細胞検査士として自動的にセットされること。
2 - 4 - 8	細胞診では細胞検査士は、複数名登録できること。
2 - 4 - 9	病理医がログインした際には、診断医として自動的にセットされること。
2 - 4 - 10	診断医は、複数名登録できること。
2 - 4 - 11	診断フェーズ選択(未診断、原案診断、検討中、最終診断、追加診断、訂正診断、電子ロック、等のフェーズ選択)ができること。診断フェーズの種類は制限がないこと。
2 - 4 - 12	最終診断登録後に、追加診断、訂正診断の入力ができること。
2 - 4 - 13	追加診断、訂正診断にて登録された際には、画面上に状況が明確に表示されること。
2 - 4 - 14	免疫染色依頼の際に、依頼確定前にポップアップなどで染色内容の確認ができること。また、確認画面で染色内容を変更したい場合には免疫染色依頼画面に戻ることができること。
2 - 4 - 15	細胞診ではパピニコロウ分類による判定入力ができること。
2 - 4 - 16	細胞診ではベセスダ分類による判定入力ができること。
2 - 4 - 17	診断名は、手入力による任意文章入力、編集ができること。
2 - 4 - 18	診断名は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
2 - 4 - 19	組織診/剖検では診断コード、診断分類、臓器分類、診断名、採取法、臓器による診断名検索ができること。 細胞診では診断コード、診断分類、材料分類、診断名、採取法、材料、クラス判定による診断名検索ができること。
2 - 4 - 20	診断名マスタは、ユーザ毎に登録、検索できること。
2 - 4 - 21	診断名マスタは、保守画面に戻らずに診断入力画面より新規登録ができること。
2 - 4 - 22	診断名の修飾語は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
2 - 4 - 23	所見文は、手入力による任意文章入力、編集ができること。
2 - 4 - 24	所見文への文字装飾機能を有すること。装飾は斜体・太字・下線・文字色変更等が可能であること。
2 - 4 - 25	所見文は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

2 - 4 - 26	所見文マスタは、ユーザ毎に登録、検索できること。
2 - 4 - 27	所見文マスタは、保守画面に戻らずに診断入力画面より新規登録ができること。
2 - 4 - 28	組織診/剖検では診断名、所見文に、受付臓器名称を貼付できること。 細胞診では診断名、所見文に、受付材料名称を貼付できること。
2 - 4 - 29	組織診/剖検では診断臓器毎のがん取扱規約テンプレートを有すること。 細胞診では診断材料毎のがん取扱規約テンプレートを有すること。
2 - 4 - 30	がん取扱規約テンプレートは、ユーザにて作成、編集ができること。
2 - 4 - 31	がん取扱規約の各項目を選択する等により診断文を作成する選択式癌取扱規約機能を有すること。
2 - 4 - 32	診断臓器毎の所属リンパ節テンプレートを有すること。
2 - 4 - 33	診断名、所見文の、医学用語スペルチェック機能を有すること。
2 - 4 - 34	標本番号毎に治験用メモ欄が搭載されていること。
2 - 4 - 35	組織診/剖検では所見文は、文字数の制限が無いこと。
2 - 4 - 36	細胞診では出現細胞の登録ができること。
2 - 4 - 37	免疫染色の結果判定入力をできるようにすること。また、判定結果に応じて、追加検査依頼(ラベル詳細)機能が起動できること。
2 - 4 - 38	追加染色依頼ができること。
2 - 4 - 39	組織診/剖検ではブロックを指定して、染色依頼ができること。 細胞診では材料を指定して、染色依頼ができること。
2 - 4 - 40	組織診/剖検では複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。 細胞診では複数材料を指定して、一括染色依頼ができること。
2 - 4 - 41	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
2 - 4 - 42	染色指示書を印刷できること。
2 - 4 - 43	複数の薄切切片を1枚のスライドに集約した場合に、ブロック番号情報の結合を簡易的な操作で行うことができること。
2 - 4 - 44	標本マーク(重要、希少、学会、その他、等)の登録ができること。
2 - 4 - 45	同一患者の過去標本(既往歴)一覧が表示されること。また、一覧から選択することで詳細画面を参照できること。
2 - 4 - 46	標本の進捗状況が表示されること。
2 - 4 - 47	結果照会WEB画面を参照できること。
2 - 4 - 48	報告書の印刷ができること。
2 - 4 - 49	報告書に画像を添付できること。
2 - 4 - 50	腫瘍分子の報告様式を出力できること。
2 - 4 - 51	組織診/剖検では切出し情報が参照できること。
2 - 4 - 52	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
2 - 4 - 53	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
2 - 4 - 54	顕微鏡画像の登録枚数には制限が無いこと。
2 - 4 - 55	顕微鏡画像の編集(線、矢印、任意の文字情報等を、画像上に入力)ができること。
2 - 4 - 56	オリジナル画像と編集後の画像は、個別に管理できること。
2 - 4 - 57	加工画像の再編集ができること。
2 - 4 - 58	画像毎にコメントを入力できること。また定型文も選択できること。
2 - 4 - 59	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
2 - 4 - 60	登録された画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
2 - 4 - 61	登録された画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)をダウンロードできること。
2 - 4 - 62	診断登録履歴の管理ができること。
2 - 4 - 63	診断画面はデュアルディスプレイに対応できること。
2 - 4 - 64	組織診/剖検では所見コード、臓器分類、所見名、採取法、臓器による所見名検索ができること。 細胞診では所見コード、材料分類、所見名、採取法、材料による所見名検索ができること。
2 - 4 - 65	部門内でのみ参照できるメモ入力ができること。
2 - 4 - 66	診断時確認項目の登録ができ、検索の際に簡便に抽出できること。
2 - 4 - 67	診断時確認項目はユーザにて追加登録・修正ができること。
2 - 4 - 68	標本番号毎に関連するOfficeデータ(Word, Excel, Powerpoint)やJPEGなどの画像データが管理できること。
3	共通機能
3 - 1	オーダー検索機能
3 - 1 - 1	オーダー到着確認画面を有すること。
3 - 2	問合せ検索機能
3 - 2 - 1	受付、診断等の作業中に並行して問い合わせ検索ができること。
3 - 3	標本検索機能
3 - 3 - 1	受付、切出し、ラベル印刷、診断の進捗状況による検索ができること。
3 - 3 - 2	検索結果の一覧印刷やExcel等のデータ出力機能を有すること。
3 - 3 - 3	組織・細胞・剖検による検索ができること。
3 - 3 - 4	術中迅速・院外・至急による検索ができること。
3 - 3 - 5	依頼日・採取日・受付日・診断日による検索ができること。
3 - 3 - 6	標本マーク・患者マーク・受付時確認項目による検索ができること。
3 - 3 - 7	一覧表示された標本から詳細表示画面(受付・切出し・診断)を表示できること。
3 - 3 - 8	検索結果一覧の表示項目は、システムを改造することなく設定変更で調整できること。
3 - 4	詳細検索機能
3 - 4 - 1	受付および診断情報を複合させ検索ができること。
3 - 4 - 2	標本種別毎(組織診、細胞診、剖検)に検索ができること。
3 - 4 - 3	標本種別(組織診、細胞診、剖検)の混在検索ができること。
3 - 4 - 4	患者属性検索ができること。
3 - 4 - 5	検索結果は、一覧表示および詳細表示ができること。一覧表示対象件数の制御ができること。
3 - 4 - 6	問い合わせ結果から診断済み標本の診断内容を表示できること。

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

3 - 4 - 7	検索結果をExcelまたはCSV出力できること。
3 - 4 - 8	検索条件はユーザ毎に設定・保存できること。
3 - 4 - 9	Excelファイル/CSVファイルへの出力項目は、ユーザ毎に設定・保存できること。
3 - 5	統計機能
3 - 5 - 1	保険点数統計作成支援機能(日報、月報、年報)を有すること。 入外別の保険点数統計作成支援機能(日報、月報、年報)を有すること。
3 - 5 - 2	細胞診認定施設統計ができること。
3 - 5 - 3	業務量確認として、各病理医毎または臨床検査技師毎の診断件数及び診断標本枚数の情報作製機能を有すること。
3 - 5 - 4	各種統計作成に柔軟に対応できること。
3 - 5 - 5	保険点数情報の病理で変更した場合、変更情報が会計一覧として出力できること。
3 - 6	台帳機能
3 - 6 - 1	組織診/細胞診/剖検業務・診断台帳作成ができること。
3 - 6 - 2	各種台帳作成に柔軟に対応できること。
3 - 6 - 3	ラベル印刷済の標本およびブロック情報の一覧を日単位で出力できること。
3 - 7	標本貸出管理機能
3 - 7 - 1	バーコード検索ができること。
3 - 7 - 2	標本貸出情報の追加・訂正・削除機能ができること。
3 - 7 - 3	未返却リスト印刷ができること。
3 - 7 - 4	貸出状出力機能を有すること。
3 - 7 - 5	貸出標本は、貸出中の表示がされること。
3 - 7 - 6	貸出期限を過ぎても返却されていない未返却標本を検索できること。
3 - 8	結果照会機能
3 - 8 - 1	診断状況毎の表示機能を有すること。
3 - 8 - 2	組織診・細胞診・剖検の結果照会ができること。
3 - 8 - 3	患者ID毎の表示機能を有すること。
3 - 8 - 4	患者カナ氏名、患者ID、依頼医等の検索項目より検索できること。
3 - 8 - 5	照会画面の印刷機能を有すること。
3 - 8 - 6	VIP標本の非表示機能を有すること。
3 - 8 - 7	ホルマリンの「入庫」「払出」「返却」などの管理ができること。
3 - 9	マスタ管理機能
3 - 9 - 1	VIP患者の情報も登録ができること。
3 - 9 - 2	標本番号発番設定ができること。
3 - 9 - 3	ユーザ情報の登録・編集・削除ができること。
3 - 9 - 4	ユーザ毎の権限制御ができること。
3 - 9 - 5	ロール情報を有すること。
3 - 9 - 6	診療科情報を有すること。
3 - 9 - 7	依頼元情報を有すること。
3 - 9 - 8	病院スタッフ情報を有すること。
3 - 9 - 9	保険点数情報を有すること。
3 - 9 - 10	臨床診断情報を有すること。
3 - 9 - 11	臓器、材料分類情報を有すること。
3 - 9 - 12	臓器、材料情報を有すること。
3 - 9 - 13	採取法情報を有すること。
3 - 9 - 14	採取法分類情報を有すること。
3 - 9 - 15	染色情報を有すること。
3 - 9 - 16	染色セット名称情報を有すること。
3 - 9 - 17	染色セット明細情報を有すること。
3 - 9 - 18	診断分類情報を有すること。
3 - 9 - 19	診断情報を有すること。
3 - 9 - 20	所見文情報を有すること。
3 - 9 - 21	クラス判定情報を有すること。
3 - 9 - 22	ベセスダ判定情報を有すること。
3 - 9 - 23	出現細胞情報を有すること。
3 - 9 - 24	出現細胞値情報を有すること。
3 - 9 - 25	適正・不適正情報を有すること。
3 - 9 - 26	リンパ情報を有すること。
3 - 9 - 27	修飾語機能を有すること。
3 - 9 - 28	取扱規約情報を有すること。
3 - 9 - 29	選択式癌取扱規約機能用の項目デザイン情報を有すること。
3 - 9 - 30	アクセスログ参照機能を有すること。
3 - 10	データ移行
3 - 10 - 1	既存システムからのデータ移行ができること(費用は調達費用に含む)。
3 - 10 - 2	マスタデータ移行ができること(費用は調達費用に含む)。
3 - 11	ポータル機能
3 - 11 - 1	病理部門内での情報共有の為、スケジュール管理機能、ファイル管理機能、掲示板機能、回覧板機能を有すること。
3 - 12	工程管理機能
3 - 12 - 1	ISO15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)にて要求される工程管理ができること。管理内容については、発注者と協議の上、決定すること。
3 - 12 - 2	TAT管理を行うこと。
3 - 12 - 3	切出し工程において、動画または画像撮影を可能とすること。
3 - 12 - 4	ホルマリン固定時間管理を行うSPRECシートへの対応ができること。但し、起点は病理システムにて受付登録をしてからとする。

「病理検査システム一式の賃貸借及び保守」
仕様書

4	納入業者要件
4 - 1	プロジェクト体制
4 - 1 - 1	病理システムは400床以上の施設への導入実績が50以上あること。実績を一覧として提出すること。
5	保守
5 - 1	保守体制
5 - 1 - 1	契約期間(5年間)の保守を実施すること
5 - 1 - 2	サポートセンターを有し、毎月の保守報告書を提出すること。
5 - 1 - 3	インターネットVPNを利用したリモートメンテナンスが可能なこと。
5 - 1 - 4	定期的に保守報告会を部門側と開催すること。開催頻度の目安は3ヶ月に1回程度とするが、必要に応じて臨時報告会を開催すること。
5 - 1 - 5	意見交換会を導入し、初年度は毎月、次年度からは定期的に行うこと。
5 - 2	ハードウェア保守
5 - 2 - 1	契約期間内において、定期点検をリモートにより年2回実施すること。
5 - 2 - 2	ハードウェアの故障時等は、随時修理及びシステム復旧作業を行うこと。また、作業後は動作確認を行い、速やかに報告を行うこと。
5 - 3	ソフトウェア保守
5 - 3 - 1	ソフトウェアに係る障害時は速やかに対応を行い、復旧作業等を行うこと。また、作業後は動作確認を行い、速やかに報告を行うこと。
5 - 3 - 2	必要に応じてソフトウェアのレベルアップを行うこと。
5 - 3 - 3	発注者側が提供するウイルス対策ソフトウェアを実装すること。パターンファイルは院内の配信サーバから受信すること。発注者側が提供する最新のパターンファイルに定期的に更新すること。
6	システム構成
6 - 1	病理検査システム
6 - 1 - 1	病理検査システムはバックアップ処理を行うことができるものであること。
6 - 2	機器構成
6 - 2 - 1	<p>病理検査システムが円滑に作動するために次に掲げる機器の他、必要不可欠な機器を導入すること。 また、検収時に、納入機器一式の明細を提出すること。 なお、既存流用の物品についてはこれを使用するものとし、接続等に必要な経費は本契約に含むものとするが、物品費用についてはこれを含まない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■サーバー一式(サーバー、無停電電源装置、バックアップ装置(NAS)等):1式 (なお、現行システムの既存データ及び導入後5年間の運用を想定したHDD容量とすること) (なお、サーバーはHDD及び電源装置を冗長化すること) ■二次元バーコードリーダー及びスタンド一式:46式※既存バーチャルスライド装置制御端末接続用1台含む ■クライアントPC:45台(デスクトップPC:31台、ノートPC:3台、2in1コンバーチブルPC:11台。要、オフィスソフトウェア(Microsoft Word、Excel、PowerPoint)、文字入力ソフトウェア(ATOK・医療辞書)。 ■ディスプレイモニター(24インチまたは同等のサイズ):31台 ■診断用サブモニター((24インチまたは同等のサイズ、回転可能なもの):7台 ■無線ルーター:2台 ■ドキュメントスキャナ:3台 ■A4モノクロレーザープリンタ:1台 ■A3カラーレーザープリンタ:1台 ■A4カラーレーザープリンタ:1台 ■包埋カセットレーザープリンタ(カセットマガジンセット数:6、専用カセット指定が無いこと):1台 ■スライドガラスプリンタ(外形寸法:W120xD240xH250mm、100枚収納マガジン:2連、スタッカー収納:50枚):2台 ■耐溶剤性ラベルプリンタ:2台 ■一眼レフカメラ一式:3式(要、撮影画像のオンライン取込。) ■顕微鏡用デジタルカメラ一式:13式(要、撮影画像のオンライン取込。) ■顕微鏡用デジタル用マウント一式:13式(組織診9台、細胞診4台) ■動画撮影カメラ(フットスイッチ付)及びバックアップ装置一式:1式 ■リモート保守回線及び機器一式:1式(月次費用も調達費用に含めること)

■神奈川県立がんセンター 病理検査システム機器構成一覧

No	製品区分	計	サーバ室	標本作成室	データ画像室	切出し室	包埋薄切室	ゲノム標本室	迅速生材処理室	病理診断室	細胞診断室	研究所	がん登録事務局	備考
1	【サーバ】													
2	サーバ(UPS、NAS、リモート機器含む)	1	1											
3	【PC】													
4	デスクトップPC ※モニタ1台含む	31		2		3	1		1	13	9	1	1	
5	増設モニタ	7								7				回転可能なもの
6	ノートPC	3		1							2			細胞診断用1台をデスクトップに変更
7	2in1コンバーチブルPC	11				8	2	1						
8	【プリンタ】													
9	A4カラーレーザープリンタ	1				1								
10	A3カラーレーザープリンタ	1								1				
11	A4モノクロレーザープリンタ	1							1					
12	ロール紙ラベルプリンタ	2		1					1					
13	【カメラ】													
14	マクロ撮影用カメラ	3				2			1					D90(切出し室)、D5000(迅速生材処置室)は前システムからの流用品。本調達で更新すること
15	顕微鏡用カメラ	13								9	4			
16	【周辺機器】													
17	バーコードリーダー	46		3	1	11	3	1	1	13	11	1	1	
18	ドキュメントスキャナ	3		2						1				Fi-6140(標本作成室、病理診断室)は前システムからの流用品。本調達で更新すること
19	動画撮影カメラ(NAS含む)	1				1								
20	無線ルーター	2				1	1							3→2に変更
21	【特殊機器】													
22	カセットプリンタ	1				1								レーザータイプであること
23	スライドプリンタ	2					2							
24	【既存流用】													
25	A4モノクロレーザープリンタ(リコ製、既存)	1		1										電子カルテ用。システム更新時には調達外
26	マクロ撮影用カメラ(D5600既存)	1				1								2018年追加。システム更新時は流用想定
27	ロール紙ラベルプリンタ	1						1						2022年購入。システム更新時は流用想定